



進路指導	<p>◎進路ガイダンスや相談、情報提供及びキャリア教育によって、早い時期から自己に適した進路を主体的に選択できる力を養う。</p> <p>取組状況の指標 進路ガイダンス、「進路だより」、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等が有効に活用されている。</p> <p>達成状況の指標 「就職・進学について自己実現ができた」3年次生徒が90%以上。 学校斡旋を希望する生徒の内定率100%、進学希望者の100%希望実現。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年別進路講話を実施：1年生（4月）、2年生（4月、3月）、3年生（4月、7月）</li> <li>・学年別進路ガイダンスの実施：1年生（12月・3月）、2年生（9月・3月、1～3月4学科）、3年生（6～7月5学科）</li> <li>・事業所訪問を実施：前年度就職実績の事業所（伊賀管内、滋賀県）訪問および女子の求人開拓（4～6月上旬）</li> <li>・保護者向け講話を実施：2・3年生（5月）、3年生（12月）</li> <li>・3年生の就職・進学模擬面接指導の実施</li> <li>・進路だよりを発行</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生は「進路に関わる講演会等が充実」88.9%、「面接指導が充実」88.6%、「自己実現を達成」89.7%と回答</li> <li>・保護者は、「面接指導が充実」84.0%、「自己実現を達成」87.0%（満足度は生徒・保護者とも昨年とほぼ同値）</li> <li>・学校斡旋の就職希望者の内定率100%達成</li> <li>・進学希望の受験者100%合格達成</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間の首尾一貫した進路指導が進みつつあり、就職の一次合格率約9割、進学希望者も目的を達成した。</li> <li>・事業所訪問により、卒業生の状況、求める人物像、求人計画等の情報収集及び新規求人開拓ができた。</li> <li>・大学等の入学説明会に参加し入試情報を集めることで、生徒の指導に役立てることができた。</li> <li>・3年次早期（6月）より面接練習を3回以上行い、マナーや対話力等の向上に努め、目標を達成することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望者については、志望校の入試方法や経費を保護者・生徒に早い時期に理解させ、対処できるようにしていく必要がある。</li> <li>・社会人としての基礎学力、コミュニケーション能力の向上を学校全体で取り組む必要がある。</li> <li>・就職、進学希望者の比率によりクラスのガイダンス実施の方法を検討する必要がある。</li> <li>・学科やコース、男女によって求人数に偏りがあり、生徒の進路実現に向けて事業所との連携と求人開拓が必要である。</li> <li>・「進路選択の手引き」の内容見直しやスリム化を図り、より分かり易い資料とする必要がある。また、進路指導室の就職・進学の資料等を有効に活用出来るための工夫が課題である。</li> </ul>
2	<p>検定合格・資格取得</p> <p>◎資格取得や検定合格に向けての支援を強める</p> <p>取組状況の指標 検定対策として勉強会や補習が実施されている。</p> <p>達成状況の指標 検定や資格の合格数が昨年度より増加している。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検定・資格カレンダーを3回発行した。</li> <li>・各教科、各学年で、各検定に向けての勉強会や補習を実施した。</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種検定、資格試験に延べ1242名が受験し、714名が合格した。（合格率57.5%）</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種検定、資格試験に向け、意欲的に取り組む生徒が多くみられた。合格率も昨年（53.5%）より向上した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は勉強会や補習等を各教科、各科等で独自に行っているため、体系化し、学校全体の取組としていく必要がある。</li> </ul>
部活動	<p>◎部活動を通して競技力・活動の向上を図るとともに、人間力の向上を目指す。</p> <p>取組状況の指標 2・3年生で部活動を継続している生徒の割合が昨年度を上回っている。</p> <p>達成状況の指標 団体3種目以上、個人10人以上が東海大会に出場。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各部とも意欲的に練習に取り組んでいる。</li> <li>・1年次は全員をどこかの部に加入させている。</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年次以降は、意欲的に取り組む生徒と、部活に入らない生徒に二極化し、3年間部活動を続ける生徒は減少のみである。</li> <li>・生徒の満足度は1年次69%で、昨年度よりも低くなっている。</li> <li>・東海大会出場数は、目標を達成できなかった。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上部のように東海大会、全国大会につながる活動している部がある他、サッカー部、弓道部等も成果をあげている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の部以外に、さらに多くの部で活性化を図っていくことが課題である。</li> <li>・2・3年次の部活動加入者の増加や活性化を進めていく必要がある。</li> </ul>

<p>3</p> <p>相談活動・家庭訪問</p> <p>◎生徒の小さな変化を見逃さず、悩みに寄り添った教育相談を行うとともに、支援を必要とする生徒についての情報共有や生徒理解、家庭との連携をすすめる、支援を強化する。</p> <p>取組状況の指標 スクールカウンセラーによる相談や関係者による情報交換会が有効に活用されている。</p> <p>達成状況の指標 教育相談に係る生徒満足度が昨年よりも上昇している。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係職員による、気になる生徒に係る情報交換会を定期的に開催するようになった。</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度 (H26) 67.6% → (H27) 71.0%</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2、3年生の生徒にとっては、安心して相談ができる場所として、教育相談が活用できている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は、上級生に比べ利用が少なく、教育相談というシステムをより周知する必要がある。</li> </ul>
<p>人権学習</p> <p>◎人権LHR等を通して生徒の人権感覚を高める。</p> <p>達成状況の指標 「人権学習を通して『自分の大切さと共に他人の大切さを認める力』を高めることができた生徒が90%以上。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒対象の人権講演会、人権学習を各学年2回または3回実施。</li> <li>・教職員研修としてのフィールドワークを実施。</li> <li>・全職員が年1回程度、校外の研修会に参加した。</li> <li>・公開人権LHRに取り組んだ。</li> <li>・部落問題学習に関する講演会を行なった。</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習に関する満足度は80%を超えている</li> <li>・人権学習後のアンケートを見ると、明確に答えられる生徒が昨年より増加している。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権LHRの工夫によって、かなり生徒の心に響く可能性がわかってきた。課題をはっきりさせることができた。</li> <li>・生徒の人権教育学習資料を使つての職員研修は、すぐに実践できるものとして、とても役に立った。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の人権学習に対応して、職員研修会を適時実施する必要がある。</li> <li>・指導する教員自身が、部落問題を含め、さまざまな人権問題について、さらに学習する必要がある。</li> </ul>
<p>安心・安全</p> <p>◎実習や部活動における安全の確保に力を入れる。</p> <p>取組状況の指標 ヒヤリハットの事例を全員が共有し、危機管理意識を持って行動している。 ヒューマンエラーをカバーする仕組みを検討している。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度、本年度実習中の事故があった学科については、再発防止策として、事故防止マニュアルを作成するとともに、機会あるごとに意識向上に取り組んでいる。</li> <li>・しかし、学校全体のものにはなっていない。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故をきっかけに、多くの学科で、事故防止マニュアルを作成し、あらためて安全管理を徹底している。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中の事故防止等については、どうしても関係する学科だけの問題になりがちである。</li> </ul>
<p>働きやすい職場づくり</p> <p>◎総勤務時間の縮減や休暇の取りやすい職場づくりに取り組む。</p> <p>取組状況の指標 昨年度に比べ、放課後の会議が減っているとともに、勤務の振り替え等が有効に活用されている。</p> <p>達成状況の指標 教員満足度が昨年度より3%以上上昇している)</p> <p>◎風通しのよい職場づくりに取り組む。</p> <p>取組状況の指標 全教職員がデスクネットによる情報共有を行うとともに、職場の中に相談しやすい雰囲気がある。管理職が頻りに準備室等を訪れ、対話を行っている。</p> <p>達成状況の指標 昨年度に比べ情報共有が進んでいると感じる教職員が増加している。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の事前配布や議事の効率化によって放課後の会議時間は、昨年度に比べ減らすことができた。</li> <li>・勤務の振り替え等が有効に活用された。</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デスクネットを利用した情報共有に取り組んでいるが、情報共有は進んでいるとはいえず、職員の満足度は低下している。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌において、仕事をチームで行う改善が進んでいる。チームワークがとれてきている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議のさらなる精選や事務処理の見直し等により、職員の多忙化解消を図っていく必要がある。</li> <li>・職員の多さも原因の一つであるとは考えられるが、情報共有の有効な手立てが見出せておらず、引き続き取り組む必要がある。</li> <li>・管理職の考え方を浸透させたり、職員の思いを充分汲み取るためにも、管理職が時間をつくって、職員との対話をさらに増やしていく必要がある。</li> </ul>

4	<p>学科間連携・地域連携</p> <p>◎生徒が地域に出て学ぶ機会や地域の方の校内での指導の機会を増やすとともに、生徒を主体とした学科間連携に取り組む。</p> <p>取組状況の指標 昨年度に比べ、生徒を主体とした取組が増えている。</p> <p>達成状況の指標 生徒の満足度が上昇している。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「若き匠育成プロジェクト事業」が3年目となり、無理なく前向きに、学科間の連携を意識した取り組みを行なうことができた。</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科間連携、地域連携に関する満足度調査は行っていないが、白鳳caféをはじめとし、生徒の生き生きした姿が見られた。</li> <li>・地域の受け止めも好評である。</li> <li>・産業教育フェアでのオブジェクトを学科間連携し作成した。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との連携や学科間連携が増え、生徒が校外に出て生き生きと活躍する姿を多く見ることができた。</li> <li>・学校外の方と接する中で、生徒がマナー等を学ぶことができた。</li> <li>・校内開催の「白鳳カフェ」も定着し、どうすれば来客に楽しんでもらえるか、各科が工夫する姿や、生徒が主体的に地域に出て行き広報活動を行う姿が見られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒主体の取組に変えようとしているが、まだまだ不十分である。</li> </ul>
	<p>情報発信等</p> <p>◎学校の取り組みや生徒の様子などを保護者や地域に発信するとともに、要望や意見を聞く機会を設ける。</p> <p>取組状況の指標 ホームページが頻繁に更新されている。自治会だよりの発行やマスコミへの情報提供が頻繁に行われている。</p> <p>達成状況の指標 昨年度より多くの方がホームページにアクセスしている。</p> <p>◎生徒が保護者や地域、中学校等に向けて学習成果を発表できる機会を設ける。</p> <p>取組状況の指標 「白鳳Café」や実習製品の展示、販売、中学生による見学会が有効に活用されている。</p> <p>達成状況の指標 イベント等への参加者の数や満足度が、昨年度に比べ上昇している。</p>	<p>【取組状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科で「白鳳cafe」へ参加することができた。また、校内での開催で生徒の主体性もでてきた。新たな企画などもあり、地域からの来場も多く、好評だった。</li> <li>・自治会だよりを月1回のペースで発行できた。</li> </ul> <p>【達成状況の評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「白鳳カフェ」等における満足度調査は行わなかった。</li> </ul>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞に学校の名前が出る機会が多く、本校の取組が確実に地域に理解されるようになってきている。</li> <li>・発信先への訪問により、本校の取り組みを理解してもらっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、マスコミ等への情報提供を行っていく必要がある。</li> <li>・イベント開催が生徒や職員の過重負担になることのないよう、「白鳳Café」を年2回程度と、校内にて無理なくできる回数にするなど改善を図り、今後も継続的に取り組めるものとしていく必要がある。</li> <li>・「白鳳カフェ」を学科主体の取組とするのか、学校全体で取り組むべきか等の検討が必要である。</li> </ul>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科が専門性を活かし、生徒一人ひとりの状況を把握し、希望する進路の実現に向けてきめ細かい指導を行っている。</li> <li>・授業規律の確保や教育相談体制が充実し、生徒が安心して学習できる環境が整いつつある。</li> <li>・保護者との連携を密にしながら、地域の期待に応えられる学校として、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいる。</li> </ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力の定着に向けて授業改善に取り組んでいるが、生徒の学力幅が大きく十分な成果が出ていない。</li> <li>・専門学科の本格的な授業が1年次の9月からとなるため、専門的知識や技術を学ぶための十分な授業時間を確保に努める必要がある。</li> <li>・女子生徒の部活動加入率が低下しており、部活動以外に活躍できる場を作る必要がある。</li> </ul>

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
〈実施回数〉	3回
実施内容	(第1回) ・「学校プロフィール」「学校経営の改革方針」の検討 他 (5/27) (第2回) ・授業見学等 (10/26) (第3回) ・学校自己評価の検証、「学校評価報告書」の作成 (3/3)

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒への丁寧な指導が徹底されており、引き続きこの指導を続けて、さらに進化してほしい。具体的なコメントとしては以下のとおり。</li><li>・授業見学に際して、教室や廊下、ロッカー上などきれいに清掃されており、授業態度も良かった。</li><li>・文化祭での体育館での生徒の整列の様子を見て、教員の指導が徹底されていることがわかった。</li><li>・ある保護者から、「白鳳の先生は丁寧に勉強を見てくれるので、授業が分かり楽しい」と聞き、また成績も上がったそうである。</li><li>・グラウンドに向かう部活動の生徒が礼儀正しく挨拶をしてくれなので、見ていて気持ちがよい。このことは社会に出てすぐに役立つことである。</li><li>・進学により地域から出て行った生徒が卒業後に地域にもどって地域の産業を支えてほしい。そのための取組などを充実させてほしい。</li></ul>

(5) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"><li>・基礎学力の定着、専門性の向上に向けて、電子黒板などICT機器も活用しながらアクティブラーニングなど指導方法の工夫・改善に取り組む。</li><li>・複数の専門学科を有する特色を活かし学科間連携を図りながら、地域貢献活動等を充実させて、生徒の主体性や協調性を育む。</li><li>・職員間の情報共有のための組織づくりや、管理職のリーダーシップの発揮等に重点的に取り組み、職員の満足度の向上を図る。</li></ul>